

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270500830
法人名	有限会社 上野企画
事業所名	グループホーム ねむの木
訪問調査日	平成 19 年 10 月 2 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 21 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270500830
法人名	有限会社 上野企画
事業所名	グループホーム ねむの木
所在地 (電話番号)	大村市黒丸町1471-1 (電 話) 0957-55-8605

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年10月2日	評価確定日	平成19年11月21日

## 【情報提供票より】(平成 19年 9月 1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6人, 非常勤 5 人, 常勤換算 9.25 人	

### (2)建物概要

建物形態	併設 <del>(単独)</del>	<del>(新築)</del> 改築
建物構造	木造 造り 平屋	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱費等400円/日
敷 金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		円

### (4)利用者の概要(平成 19年 9月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	4 名	要介護2	0 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.5 歳	最低 77 歳	最高 93 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	牧山医院、共立病院、俣野歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型サービス事業所として、要領にもとづいた定期的な運営推進会議の開催や、地域の行事や活動への参加に積極的に取り組んでいるほか、老人会やボランティアをはじめとする近隣の住民、保育園や小学校の子ども達とのふれあいの場としてホームを地域に開放するなど地域との協力関係を深め、地域とともにをモットーに地域の一員としてのグループホームを目指して日々努力されている。

また、管理者と職員は一人となり、運営推進会議や外部評価を活用しながら、運営理念に基づいたケアに取り組んでおり、利用者は「人生の先輩」とあるという認識のもと、一人ひとりを尊重し、寄り添い、なじみの関係を築くように努め、個々のペースに合わせて、絵画、花の手入れなどの趣味活動や、夏祭りで利用者と職員がお揃いのTシャツを着てフラダンスを踊るなど、様々な役割や楽しみの支援をしており、個性を活かした家庭的なグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員は外部評価を前向きに捉えており、過去の評価結果を活かして、日々のケアを振り返り、見直しをし、サービスの質の確保と向上に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員は、自己評価、外部評価を前向きに捉え、地域密着型サービス評価ガイドブックをテキストに、毎日1項目ずつ事例を挙げながら勉強会を行い、日常的に日々のケアを振り返り、自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議要領により、昨年は2ヶ月に1回開催しており、事業所のサービス提供状況や、評価への取り組み等の報告と意見交換を行っており、会議録もきちんと整理している。また、今年になってメンバーの都合等により調整が難しくしばらく開催されていない状況があったため、現在、運営推進会議の運営等について検討を進めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情、不安への対応については、常に親しみをもって話しかけたり、問いかけたりしながら、何でも気軽に話してもらえぬ雰囲気づくりに留意し、家族等から提案された意見や要望等については、申し送りやミーティングで話し合い、日々のケアに反映する仕組みを整えている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営者が地元出身者で、町内会の人と顔なじみということもあり、利用者や職員もごく自然な形で町内会の一員としての付き合いがあり、自治会や老人会、保育園や小学校等の子ども達との交流も盛んに行っており、ホームをふれあいの場として提供したり、地域の行事に参加したり、ホームの行事に招待するなど活発な活動を展開している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	常に地域に根ざして、利用者と職員が家庭的な環境のもとで、認知症高齢者がその人らしく安心して笑顔と生活意欲を持って暮らし続けられるように、心をこめて支援していくことを念頭に独自の基本理念と職場理念をつくりあげ、地域密着型サービスの向上に日々努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域の中で利用者がその人らしく安心して暮らし続けることができるよう支援していくことを念頭に、独自のわかりやすい基本理念と職場理念を掲げ、毎朝ミーティングの後に理念を唱和し、目で見、声に出して、耳で聴いて確認し合いながら、理念に基づく運営方針の根拠を明らかにし、職員の意識向上を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者が地元出身であるため、町内会のすべての人が顔馴染みということもあり、利用者や職員もごく自然な形で町内会の一員としての付き合いが行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は、共に評価を前向きに捉えサービスの改善向上を目指しており、地域密着型サービス評価ガイドブックを参考に、毎日ミーティングの後に1項目ずつ事例をあげるなどして勉強会を行いながら自己評価に取り組み、運営理念の実践と評価を活かした具体的な取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議要領により昨年は2ヶ月に1回開催してきたが、今年になってメンバーの都合等の調整が難しい状況があり、しばらく開催できなかったが、近く次回の会議の開催が決まっている。会議の内容は利用者のサービスの実際、評価への取り組み等の報告と意見交換であり、議事録もきちんと整理されている。また、運営推進会議の開催方法、あり方等についても検討を進めている。	○	運営推進会議要領には行政の指導により2ヶ月に1回開催するように規定されているが、2ヶ月に1回定期的開催することが困難な状況にあるということを踏まえて現在要領等を検討されているので、今後より現実的で効果的な開催についての検討を期待したい。

長崎県 グループホームねむの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の窓口には、手続きや問い合わせ等で時々訪問しており、事業所の実情やケアサービスの取り組み等、地域密着型サービスの向上に向けた連携も積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用請求書と一緒に「ねむの木だより」で現況を報告し、利用者個別には、担当職員より手紙や写真を添えたり、電話で様子を伝えたりするなど、それぞれの家族や利用者の状況に合わせた報告を行っている。また、家族が訪れた際には、写真を見てもらったり、生活記録や金銭出納帳などの確認をしてもらったりして、その都度家族からサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族がホームを訪れた際や手紙で、常に親しみをもって声をかけ、定例的に開催される家族会でも常に問いかけ、何でも気軽に言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。また、家族から提案された意見や要望等については、申し送りやミーティングで話し合い、日々のケアに反映する仕組みを整えている。	○	家族とともに利用者への理解を深めるための交流の場を設けるなど、家族と一体となった取り組みを検討されると、更に効果的ではないかと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族との信頼関係を築くため、馴染みの(担当)職員によるケアを心がけており、やむを得ない職員異動の際などは、利用者や家族に不安や不満を抱かせないよう、きちんとした説明を行なうなど最善の努力を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にもなるべく多くの職員が受講できるように、勤務調整、研修費用の負担などの配慮があり、研修参加後には研修報告書をホーム長へ提出するとともに、定例の全体会議で報告する仕組みとなっている。また、研修報告書は全職員が閲覧し研修内容を共有できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡会があり、研修、広報、総合評価の3つのグループに分かれて、事例検討会や研修会、相互訪問、行事等の相互見学会を実施するなど事業者同士の協働、交流活動を通じてサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむを得ずすぐに利用されるようになった場合には、家族と相談しながら、家族やサービス利用以前に関わっていた方に来てもらったり、一緒に宿泊してもらったりすることを繰り返しながら、利用者がホームの生活に安心感を持って馴染めるように支援している。また、自宅で使用していた馴染みの家具などを置き、自宅との違和感をなくす雰囲気づくりにも配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者は人生の先輩である」という考えを職員一人ひとりが共有し、利用者のケアにあたっている。また、普段から利用者に調理の技や工夫を教えてもらう場面も多く、職員も声かけなどを行い、そういった場面を多く持つように配慮し、利用者の思いや喜びを共有し、共に支え合う関係づくりが行われている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々の関わりの中で声をかけ、利用者一人ひとりの思いや暮らしの習慣などの把握に努めている。また、意思疎通が困難な利用者には、家族から情報を得たり、利用者に寄り添いながら思いや意向をそれとなく確認し、その人にとってどこで、誰と、どのように暮らすことが最良なのかについて家族を交えて検討するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように、アセスメントを含めて職員全員で意見交換やカンファレンスを行いながら、より具体的な介護計画の作成に取り組んでいる。また、利用者本人や家族には、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしているが、利用者や家族と一緒に介護計画について話し合うところまでは至っていない。	○	利用者や家族の意見を介護計画に反映させる仕組みを整えておられるので、利用者や家族と一緒に話し合いながら介護計画の作成に取り組まれると更に効果的ではないかと思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは勿論、状態変化や家族、利用者の要望等に応じた随時見直しも行っており、しっかりと記録も行っている。職員は、介護計画に基づいて日頃の利用者の支援を展開しており、利用者との関わりの中での職員の気づきや意見は、申し送りノートに記録し、朝夕の申し送りやミーティング等で随時検討されている。	○	介護計画の内容については、家族に報告し確認のサインを得ているので、介護計画の作成や見直しの際に、家族と共に話し合いながら取り組まれると、さらに効果的ではないかと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて通院やリハビリへの同行など、必要な支援について柔軟に対応しているほか、医療連携体制を整え、医療面でも利用者がホームで安心して生活できるように支援し、利用者一人ひとりの満足感を高めるよう努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診してもらうようにしており、受診の支援については、利用契約時にその旨を説明し同意を得て、基本的には家族が受診に同行するようになっているが、利用者本人や家族の状況や希望に応じて職員が同行するようになっている。また、協力医療機関の訪問診療も受けられるように体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に、利用者及び家族等の希望を聴き、納得のいくように話し合いを行っている。また、できるだけ早い段階から利用者や家族、かかりつけ医、協力医療機関等と繰り返し話し合いを行い、介護及び看護の面から可能と考えられる場合は、協力医の往診を受けながらホームで支援していく方針が共有されている。	○	終末期や重度化した場合の支援について、早期に協議し、職員間で方針を共有するという積極的な取り組みが行われているで、「看取り方針」について家族と依頼書(同意書)等を取り交わす検討などをされると、更に効果的ではないかと思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に、プライバシー確保の徹底について職員の意識向上を図るとともに、利用者一人ひとりに尊敬の念をもって接し、利用者の誇りやプライバシーを損ねないような利用者個々に合わせた言葉遣いやプライドを傷つけないような対応に努めている。また、個人情報保護にも全力で取り組んでいる。	○	プライバシーの保護は勿論、個人情報保護にも全力で取り組んでおられるため、利用者や家族に対しても個人情報保護について積極的に周知し、理解を深めていくことも検討されると更に効果的ではないかと思われる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決めているが、時間を区切った過ごし方はしておらず、入居者の体調に配慮しながら、その日その時の利用者個々の気持ちや希望を尊重して、できるだけ一人ひとりのペースに合わせて、起床や食事の時間も柔軟に対応している。		

長崎県 グループホームねむの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等利用者と職員がともに行い、一緒に同じテーブルを囲んで食事をしており、雰囲気づくりを大切にしている。また、食べこぼしのサポートもさりげなく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めるのではなく、利用者が入浴したい日、希望する時間帯に自由に入浴を楽しめるように支援するとともに、利用者の体調に合わせて足浴などの支援も行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員主導ではなく、利用者と相談しながら外出や買い物、絵画教室、花の手入れなど、役割や楽しみごとの支援を行なっている。また、夏祭り等では利用者と職員がお揃いのTシャツを着てフラダンスを踊ったり、ドライブに出かけたりと様々な気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の気分、希望に合わせて、できるだけ外気に触れて季節を肌や目で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物やドライブ等に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、利用者一人ひとりのその日の気分や状態のきめ細かな把握・見守りを徹底し、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。利用者が外出しそうな気配を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけて一緒に出かけるなど、安全面にも配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回、利用者や町内の方々と一緒に消防署の指導のもと避難訓練を行うとともに、毎日避難誘導口の点検を行い、避難場所についても全職員に周知が図られている。また、運営者が地元出身であることから、利用者もごく自然な形で町内会の一員としての付き合いがあり、地域との協力体制が確立されている。更に、スプリンクラーの年度内設置を検討している。		

長崎県 グループホームねむの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分などの摂取状況は、生活状況ケアプランチェック表に一日を通して記録し、職員間で情報を共有している。また、利用者一人ひとりの食事摂取量から、おおまかに栄養摂取の状況も把握している。	○	今後更に、定期的に管理栄養士に専門的アドバイスもらうことなどを検討されると効果的ではないかと思われる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂などの家具の配置や装飾等は利用者と一緒に考えて、利用者が自分の住んでいる家だという意識を高めてもらえるような工夫を図っている。居間には、利用者のお気に入りの椅子などを置き、居場所の確保に配慮しており、利用者にとって不快な音やまぶしい光を感じることもなく、ゆったりとのんびり過ごせるような工夫や配慮が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのベッドやタンス、仏壇、写真など、使い慣れた日用品が居室に持ち込まれているが、全体的に持ち込み品は少なく、利用者や家族の関心がやや低いようである。職員は、利用者の意向の把握方法の更なる検討を進めながらも、細やかな観察から、利用者の好みや習慣等を見だし、利用者の意向を確認しながらその人らしい居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。		日々の暮らしの中で細やかな観察を行い、利用者の好みや習慣等を見だしながら、利用者本人の意向の把握に向けた検討を進め、その人らしい居心地のよい居室づくりに取り組んでおられるため、今後の取り組みが期待できる。